

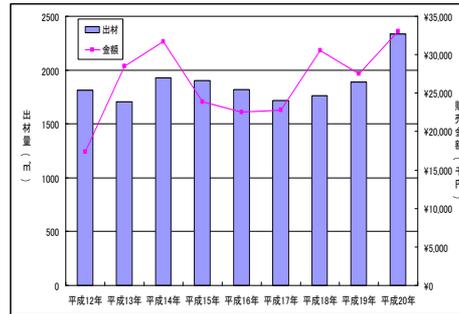


技術職員による丸太生産事業

北海道演習林 丹羽悠二

北海道演習林では天然林木材生産におけるきめ細かな作業方法の確立、高性能林業機械の導入試験、森林作業の継承や開発などを目的に技術職員による丸太生産事業(以下、丸太生産)が行われている。

丸太生産は1907(明治40)年度に始まったとされており、1976(昭和51)年度に完全直営化された。現在は伐倒などの一部業者請負で行われる作業を除き、技術職員6名で作業を行っており、今年度の丸太出材量は2,300m³、販売金額は3,300万円であった。



技術職員による丸太生産事業での出材量と販売金額



人力による木直し作業(1918年)

◆作業時期

丸太生産は4~6月の前期と9~11月の後期の2時期(6ヶ月間)に分けて行われる。

生産された丸太へのカビの侵入などによる品質の低下を防ぐため、冬山造材(積雪期に丸太生産を行う)が望ましいが、積雪による遺失材の増加や除雪費などの経費の増大などの理由から最も気温の上がる7、8月を除いた時期に丸太生産を行っている。



冬山での馬を使った丸太搬出(1918年)



木口から侵入したカビ



土場の積雪 08年11月10日



2人1組での玉切り 08年6月

◆教育・研究

丸太生産現場では学生、来演者への現場説明、作業実演なども行っており、今年度は21団体、343名の見学者対応を行った。

生産係では学生や研究者の調査補助のほかにも、技術職員により優良広葉樹の採材方法に関する報告や野生動物(ナキウサギ、エゾシカ、鳥類)の動態、林産物を使った教材の開発、キノコの天然下における発生状況など様々な分野での試験研究が行われている。



学生実習での作業実演 08年9月



IUFRO(国際林業研究機関連合)エクスカーションでの作業説明 08年6月

